

7/15
(日)

① 「古平町役場庁舎」と「禅源寺本堂五百羅漢画」の見学

② 古平町 琴平神社の神事「天狗の火渡り」の見学



① 「古平町役場庁舎」と「禅源寺本堂五百羅漢画」の見学
～昭和2年建設・鉄筋コンクリート造現役庁舎

日 時： 平成30年 7月15日 (日) 14:00～16:30

講 師： 羽深久夫 (公立大学法人札幌市立大学・教授)

アドバイザー： 堀江昭夫 (一社)北海道建築士会 古平支部長、役場職員

資 料 代： 建築士会員、ヘリテージ・マネジメント専門職育成講座生 500円
(一般の方1,000円、学生 無料) ※当日お支払ください。

会 場： 古平町役場 (古平郡古平町大字浜町40-4)

集 合： 古平町役場横駐車場

概 要： 役場庁舎は昭和2年、道庁職員の設計。建て替え計画で解体予定です。
役場庁舎の見学後、徒歩で禅源寺五百羅漢油絵を拝観予定。
京都東本願寺を手がけた伊藤平左衛門の道内最古の遺構である寶海寺を拝観します。



(古平町役場ホームページより)

② 古平町 琴平神社の神事「天狗の火渡り」の見学

日 時： 平成30年 7月15日 (日) 20:00から

講 師： 羽深久夫 (公立大学法人札幌市立大学・教授)

会場・集合： みどり公園 (古平郡古平町新地町)

概 要： ・道内では、古平町と美国町だけの「天狗の火渡り」神事です。
・露払い、一枚歯下駄の猿田彦、三頭の二人獅子、三基の神輿、毛槍奴が鐘鉦太鼓の鳴り物入りで練り歩き、最後に火渡りを行います。
・闇に映える炎の上を渡る、天狗、神輿は壮観です。

7/15 (日) の北海道ヘリテージ・マネジメント特別企画に参加します。

申込締切日: 平成30年7月12日 (木)



・参加するものにを記入してください。

① 「古平町役場庁舎」と「禅源寺本堂五百羅漢画」の見学

② 古平町 琴平神社の神事「天狗の火渡り」の見学

・氏名 _____

建築士会員、ヘリテージ・マネジメント専門職育成講座第 () 生、 一般、 学生

・連絡先 TEL (当日連絡が取れる番号) _____

メールアドレス _____

主催 (一社)北海道建築士会ヘリテージマネージャ特別委員会

申込先 申込みフォーム <https://goo.gl/forms/KEJDMFRNIEVgqkBI3>

E-メール do.heritage.semi@gmail.com

FAX 011-222-0924

問合せ先 TEL 011-251-6076 (担当:石川)

① 「古平町役場庁舎」と「禅源寺本堂五百羅漢画」の見学



古平は鯨などの沿岸漁業で早くから栄えた港町。1871（明治4）年の郡役所以来、お古の庁舎時代が長く続いた。この建物はようやく実現したもので、北海道で最初の鉄筋コンクリート造による役場庁舎で道庁職員の設計による。通りに対し45度に傾いた正面と、2方向からアプローチする玄関ポーチに、角地への意識を見て取れる。また細部にはゼセッションの影響がみられる。町民の念願かなって実現したモダン建築が、まちのシンボルとして90年以上たつ。

【建設年】1927（昭和2）年

【構造】鉄筋コンクリート造3階建



利尻沖、突然の予期せぬ大時化。舟はあっという間に傾き水船と化してしまった。乗組員全員が協力して排水に努めながら、不安のうちに漂流すること二昼夜。ちょうど付近を航行中のソ連船に船もるとも救助された。そのまま大泊港まで曳行されて、やっとの思いで上陸することができた。乗組員の種田は遭難の際、普段から信仰の観音菩薩に必死に祈り続けていた。そのときの感謝を表すため、五百羅漢画の寄進を発願した。（大正8年）

【画家】林竹次郎

（明治4年生。昭和16年没）

② 古平町 琴平神社の神事「天狗の火渡り」の見学



火渡りは、朱色装束と天狗の面をかぶった「さるたひこ」の先導で町内をあるき、ご神体を清める儀式です。大きな音の太鼓と軽快な笛の音が響き渡り、火が付けられると火柱は、約3メートルほどの高さになります。さるたひこは、火の粉を蹴散らしながら火渡りを計3回行くと、観客から大きな歓声が上がった。続いて獅子舞や奴行列、みこしも火渡し、祭りは最高潮に達する。近郊の町からたくさんの方が来町する有名な祭り。

（写真：古平町役場ホームページより）

- 注意：**
- ・三連休の中日の日曜日です。小樽古平間の道は込み合うことが予想されます。
 - ・天狗の火渡りまでの時間は、**日帰り計画**なので、古平温泉（¥500、タオルご持参下さい）等にて入浴後、休憩を薦めます。
 - ・古平町に**宿泊施設は無く**、宿泊の場合は美国、余市となります。
 - ・神事「天狗の火渡り」は午後8時頃からの開始で、**終了は9時半過ぎ**となります。
 - ・日帰りの方は、帰宅時間が夜中になります、途中で休憩を取るなど自動車の運転には十分お気をつけ下さい。

